

〔ベンチを活用した切花用隔離栽培システムの構築〕
ポット栽培における苗本数の違いが切花形質・収量に与える影響
～キンギョソウ、トルコギキョウの検討～
板橋優人・大槻優華・吉原恵子
(園芸技術科)

【要 約】キンギョソウ「アスリートイエロー」、トルコギキョウ「ボレロホワイト」はポット栽培への適性がある。定植苗本数はいずれの品目も2本において、収量性や切花形質および作業性で総合的に優れる。

【目 的】

2023年までに6品目で切花用ポット栽培での切花形質および収量等を明らかにした。本試験では都内直売所で需要の高いキンギョソウとトルコギキョウにおいて、ポット栽培への適性と苗本数が収量と品質に与える影響を評価する。

【方 法】

1. キンギョソウ「アスリートイエロー」を2023年9月4日に播種用培土(TM-2)を充填した406穴セルトレイに播種したてガラス温室で育苗した。同年10月6日にパイプハウスに定植した(ポット, 地植え)。収穫調査は5輪開花時に行った。
2. トルコギキョウ「ボレロホワイト」(406穴セルトレイ, 購入苗)を2023年11月7日にパイプハウスに定植した(ポット, 地植え)。収穫調査は2輪開花時に行った。
3. 試験区は3.5号黒ポリポットに苗本数1本・2本・3本(以下, 1本区・2本区・3本区)で鉢上げする区(27ポット/区の3反復)を設け, 参考として慣行的な地植え(反復無し)を実施した。追肥は適宜行った。ハウスは同年11月14日から翌年2月5日まで10℃, 5日以降は15℃とし, 換気は20℃とした。栽培の全期間, 手灌水とした。

【成果の概要】

1. いずれの品目も3本区は株間が狭いため収穫や灌水の作業性に劣り, 実用は困難であると考えられた(データなし)。
2. キンギョソウの到花日数は苗本数が増えるにつれて長くなった(表1)。切花形質は全ての項目で苗本数が増えるにつれて値が小さくなった。出荷規格(切花長45cm以上)はいずれの区も満たしていた(図1)。総合評価では出荷規格を満たし, 収穫率も高く, 作業性に優れる2本区を高評価にした。
3. トルコギキョウの到花日数は, 苗本数による差はみられなかった(表2)。切花長は1本区で長くなった。切花重は1本区で最も重くなった。調整重も切花重と同様の傾向であった。茎径は苗本数が増えるにつれて細くなった。花蕾数は1本区で最も多くなった。出荷規格(切花長45cm以上)はいずれの区も満たしていた(図1)。総合評価では出荷規格を満たしながら, 観賞性評価も高く, 採花本数および作業性に優れる2本区を高評価にした。

【残された課題・成果の活用・留意点】

本試験で供試した2品目は, 1本区に比べて2本区の生育が弱い傾向にあるため, 適切な肥培・灌水管理を明らかにする。

表1 キンギョソウにおける苗本数の違いが切花形質と収量に与える影響

試験区	到花 日数 ^b	切花形質					収量			
		切花長 (cm)	切花重 (g)	調整重 ^c (g)	茎径 (mm)	花穂長 (cm)	栽植 密度 (本/a)	収穫率 ^d (%)	出荷 規格 達成率 ^e (%)	採花 本数 ^f (本/a)
1本区	115 c	106.2 a	66.5 a	30.0 a	7.2 a	18.7 a	3750	86.4	100	3240
2本区	116 b	98.5 b	38.8 b	20.1 b	5.8 b	16.8 b	7500	96.9	100	7268
3本区	117 a	89.4 c	27.4 c	16.3 c	5.0 c	14.8 c	11250	89.3	100	10046
地植え ^a (参考)	145	109.2	111.5	45.6	7.8	19.3	4615	56.7	100	2617

注1)異なる英文字間には、Tukey Kramer 法により5%水準で有意差あり

注2)鉢上げ用土は赤土：腐葉土：堆肥=5：4：1（容積比）の混合用土とし、基肥は用土100Lあたり、成分量でN=48g、P₂O₅=152g、K₂O=45gを施用した。

a) 定植は株間・条間10cmの8条植え（中2条抜き）とし、基肥として化成肥料（8-8-8）を100kg/10a、苦土石灰を50kg/10a、堆肥を2t/10a施用した。b) 播種から採花までの日数 c) 60cmに切り詰め、下葉1/4を除去 d) 鉢上げもしくは定植した本数のうち開花・収穫できた本数の割合 e) 出荷規格の切花長45cmを満たす本数/収穫本数×100（%）で算出 f) 栽植密度×収穫率×出荷規格達成率で算出

表2 トルコギキョウにおける苗本数の違いが切花形質と収量に与える影響

試験区	到花 日数 ^a	切花形質					収量				観賞性 評価 ^g (点)
		切花長 (cm)	切花重 (g)	調整重 ^b (g)	茎径 (mm)	花蕾数 ^c (個)	栽植 密度 (本/a)	収穫率 ^d (%)	出荷 規格 達成率 ^e (%)	採花 本数 ^f (本/a)	
1本区	191 a	98.0 a	95.2 a	46.0 a	7.4 a	14.2 a	3750	98.8	100	3705	3.8
2本区	191 a	97.4 ab	62.1 b	32.0 b	6.4 b	9.9 b	7500	94.4	100	7080	3.3
3本区	191 a	95.5 b	44.9 b	26.8 b	5.8 c	7.3 b	11250	70.4	100	7920	3.3

注1) 地植えのデータは生育不良のため除いた。

注2)異なる英文字間には、Tukey Kramer 法により5%水準で有意差あり

注3)鉢上げ用土は赤土：腐葉土：堆肥=5：4：1（容積比）の混合用土とし、基肥は用土100Lあたり、成分量でN=48g、P₂O₅=152g、K₂O=45gを施用した。

a) 定植から採花までの日数 b) 50cmに切り詰め、下葉1/4を除去 c) 1cm以上をカウント d) 鉢上げもしくは定植した本数のうち開花・収穫できた本数の割合 e) 出荷規格45cmを満たす本数/収穫本数×100（%）で算出 f) 栽植密度×収穫率×出荷規格達成率で算出 g) 農林水産振興財団（事業課）職員を対象とし、5段階評価によるアンケート調査を実施。



図1 苗本数の違いが草姿に与える影響

注) 図中の白線は基部から切花長45cm（出荷規格）を示す。